

# 重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

## (我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成8年度～)

担当：水産技術研究所資源海洋科 鷲山裕史

### 【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁獲可能量(TAC)の決定など資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられ、重要魚種の資源評価のため各種データの収集・解析が実施されています。

イワシ類、サバ類など重要魚種の卵稚仔についても、資源評価情報の一環として、出現状況の調査を行っており、静岡県では調査船を用いて静岡県周辺海域の卵稚仔等の出現状況や分布を調べ、これら重要魚種の資源動向との関連性を検討しています。

### 【これまでに得られた成果】

- ・ 静岡県周辺の海域で毎月約 26 測点の調査を実施しています。
- ・ 駿河湾及び遠州灘周辺でのマイワシの平成 27 年 1～5 月の 1 測点当たりの卵稚仔平均採集量は、過去 10 年平均を上回り、増加傾向にあります。
- ・ 一方、カタクチイワシの平成 27 年 1～5 月の 1 測点当たりの卵稚仔平均採集量は、過去 10 年平均を下回り、減少傾向にあります。
- ・ 日本周辺のマイワシ資源は増加傾向、太平洋系群のカタクチイワシ資源は減少傾向にあります。静岡県のシラス漁ではマイワシの割合が増加し、カタクチイワシが減少する傾向にあり、卵稚仔調査や全国的な資源動向と一致しています。
- ・ サバ類の平成 27 年 1～5 月の 1 測点当たりの卵稚仔平均採集量は、卵及び前期仔魚が過去 10 年平均を下回りましたが、後期仔魚は過去 10 年平均を上回りました。マサバ資源は増加、ゴマサバは横ばい傾向にあることから、今後注視する必要があります。



写真 卵稚仔採集調査

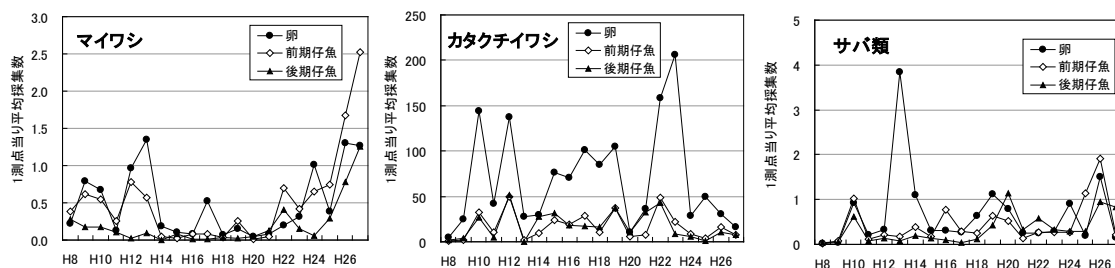


図 マイワシ、カタクチイワシ、サバ類の卵稚仔 1 測点当たり平均採集数(1～5 月)

### 【期待される成果】

- ・ 全国的に卵稚仔の情報が集積されることで、我が国周辺における重要魚種の資源評価や資源動向の情報として活用されます。

### 【今後の計画】

- ・ 沿岸域の重要魚種の卵稚仔の出現状況と、漁況との関係を検討します。

(作成 平成 28 年 4 月)